

■山鹿「さくら湯」復活 江戸、明治の建築様式（熊本日日新聞 2012年11月24日）



女優の由美かおるさん（右）や数学者の秋山仁さん（中央）も参加した「さくら湯」開業式典。左は中嶋憲正市長＝23日午前、山鹿市（小野宏明）

山鹿市が同市中心部に再建した九州最大の木造温泉「さくら湯」が23日、オープンした。明治から昭和にかけて市民に愛された山鹿温泉の“元湯”復活を多くの人が祝った。

さくら湯は約370年前に建てられた細川藩の御茶屋が起源。明治初期の大改修で市民温泉となり、1973（昭和48）年に再開発ビル建設に伴い解体された。市は今回、約9億円かけて、江戸、明治の建築様式を残す往時の姿を再建した。

この日は、数学者の秋山仁さんと女優由美かおるさんが人力車に乗って、一帯の豊前街道沿いを「お練り」。市民から紙吹雪が投げられ、開業気分を盛り上げた。午前10時、中嶋憲正市長らがテープカット。午前中は入湯を待つ客に、整理券が配られるにぎわいぶりだった。

同市鹿本町の農業野中信一さん（60）は午前2時半に玄関前に並び一番風呂。「一生に一度のこと。ゆっくりお湯を楽しみたい」と話していた。

営業時間は午前6時～午後12時。入湯料大人300円。さくら湯 TEL:0968（43）3326。

■山鹿「さくら湯」復活



往時の姿に再建された「さくら湯」。雨にもかかわらず、大勢の人が訪れた。

山鹿市が再建した「さくら湯」が23日、リニューアルオープンした。明治～昭和期の木造建築を再現した姿に、市民らは「なつかしい」と喜んだ。

さくら湯の歴史は江戸時代の「御茶屋」に始まる。明治初期に改修されて市民の憩いの場として長く親しまれたが、1973年に解体。特徴のある唐破風（から・は・ふ）の玄関を残してビル内で営業していた。その後、山鹿温泉のシンボルだったころの姿をよみがえらせようとの機運が高まり、市が約9億円かけて完成させた。

この日は朝から多くの人々が訪れ、開湯イベントや入浴を楽しんだ。地元の松井哲夫さん（70）は工事の様子を写真に収めながら開業を心待ちにしてきた。「これでまた人が集まるようになるでしょう」と目を細めた。孫娘2人と訪れた熊本市北区の林原郁子さん（63）は小学生の頃、祖母に連れられて来たことを思い出したといい、「最高に気持ち良かった」と話した。

朝日デジタル 2012.11.24

■江戸の銭湯「さくら湯」復活 熊本・山鹿



営業再開した初日から多くの市民でにぎわう「さくら湯」＝23日正午すぎ、熊本県山鹿市山鹿

熊本県山鹿市の市営銭湯「さくら湯」が江戸時代から続く伝統工法で建て替えられ、23日、営業を再開した。140年前の開業以来、増築を重ねた外観を再現。初日から多くの市民が訪れ、地元温泉街のシンボル復活を祝った。

さくら湯は、肥後細川藩が使った「御前（ごぜん）湯」を前身に1872年開業。その後、3度の増築を経て十字型の大屋根や、弧を描く「唐破風（からはふ）」様式の玄関屋根で人気を集めた。1973年の解体後、跡地を含む再開発ビル内で営業していたが「湯の町のシンボル再生」を目指し、さくら湯部分だけ独立させ、本来の跡地に建て替えられた。

この日朝、現地で開かれた記念イベントに「水戸黄門」の入浴シーンでおなじみの女優、由美かおるさんも駆けつけ、中嶋憲正市長らとテープカット。詰め掛けた数百人の市民を楽しませた。

＝2012/11/24 付 西日本新聞朝刊＝